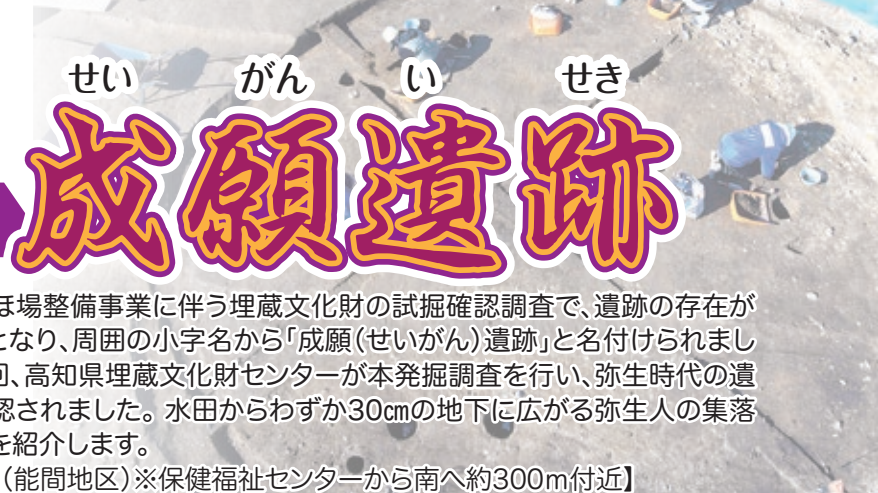




埋蔵文化財 発掘調査



国営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財の試掘確認調査で、遺跡の存在が明らかとなり、周囲の小字名から「成願(せいがん)遺跡」と名付けられました。今回、高知県埋蔵文化財センターが本発掘調査を行い、弥生時代の遺構が確認されました。水田からわずか30cmの地下に広がる弥生人の集落の一端を紹介します。

【大桶甲(能間地区)※保健福祉センターから南へ約300m付近】



土器がまとまって出土した様子



多くの柱跡が見つかった縦穴建物

弥生時代中期の集落を発見

円形の縦穴建物(住居)跡5棟のほか、多くの土坑「どこう」(地面に掘られた穴)などが見つかりました。

縦穴建物のうち、最も大きなものは直径8.6mを測る大規模なものです。この建物の床面からは複数の柱穴が見つかり、繰り返し建替えが行われたと考えられます。

土坑は50基近くが見つかりました。平面の

形は、円形や長方形・溝状などがあり、その規模も大小様々です。その多くが食糧などを保管しておく貯蔵穴と考えられます。溝状の形をした土坑からは、多くの土器がまとまって出土しましたが、完全な形にならないものがほとんどで、壊れた土器を廃棄するための穴と考えられます。

調査区の南端では、幅約2m、深さ約0.6mの溝が見つかりました。検出長は約15mとその一部を確認したに過ぎませんが、集落を囲うように溝が巡っていた可能性がります。

見つかった遺構の配置を見ると、集落の中心部に近い北側に縦穴建物、縁辺部の南側には土坑のまとまりがみられ、集落内で土地利用に違いがあることがわかります。

遺物は、弥生土器のほか石鏃「せきぞく」(石のやり)や石斧「せきぎょ」・石包丁などの石器が出土しました。これらの遺物から、今回見つかった集落跡は弥生時代中期中葉頃を中心として営まれたことがわかりました。土器の型式にまとまりがあることや、遺構の重なる

まとめ

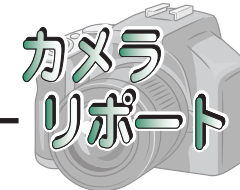
弥生時代の香長平野は、南国市田村に所在する田村遺跡群を中心として集落が展開しています。中期後葉頃からは田村遺跡群の拡大にあわせて集落の数も増加していきませんが、成願遺跡の営まれた弥生時代中期中葉は県内でも調査事例が少なく、今回の調査成果は、空白の期間を埋める貴重な資料と言えるでしょう。

おわりに

調査にあたっては地元の皆様をはじめ、多くの方々に多大なるご支援、ご協力いただきましたことを深く感謝申し上げます。

問い合わせ

埋蔵文化財センター ☎864・0671



★カメラリポート★

1/27 地産地消啓発ポスター表彰

南国市地産地消・外商推進協議会主催で、市内の高校生を対象に「地産地消で南国市を応援しよう」ポスターデザインを募集しました。市内4校28作品の内、全6作品が受賞しました。最優秀賞には「祖母から四方竹の実物を借りて細かいところをしっかりと観察した」という岡豊高校2年松村実咲さんの作品が選ばれました。市の特産品を鮮やかでダイナミックに描いたポスターは、今後地元特産物を扱う店舗や量販店などに掲示していただく予定です。



1/4 走り初め

今年の健康と飛躍・発展を願い、体育始めの行事として走り初めを開催しました。昨年度はコロナ禍で中止しましたが、今年度は人数を制限した形で開催し、中学生を主として94名が参加し、市内中心部を駆け抜けました。



1/28 防犯街路灯および防災等関連物品 寄贈式

四国電力株式会社より、防犯街路灯と防災関連物品として大型扇風機が寄贈されました。寄贈された防犯街路灯は、本市のよりよいまちづくりにつながるよう活用いたします。また、大型扇風機は、避難所での利用や、新型コロナウイルス感染症対策として活用いたします。



コミュニティ助成事業(宝くじ助成金)で備品を整備しました

稲生の中谷地区自治会は、互いに人権を尊重し、親睦を図り、協力し合って明るく住みよい地域づくりに取り組んでいます。

今回、宝くじの助成金を活用し、机・椅子やエアコンなどの公民館備品と屋外掲示板を整備したことで、安心安全・快適な環境での自治会活動の継続と発展に寄与することが期待されます。

この事業は、(一財)自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備などに助成を行うものです。助成を希望される団体は、下記までご連絡ください。

■問い合わせ
企画課企画調整係 ☎880-6553

